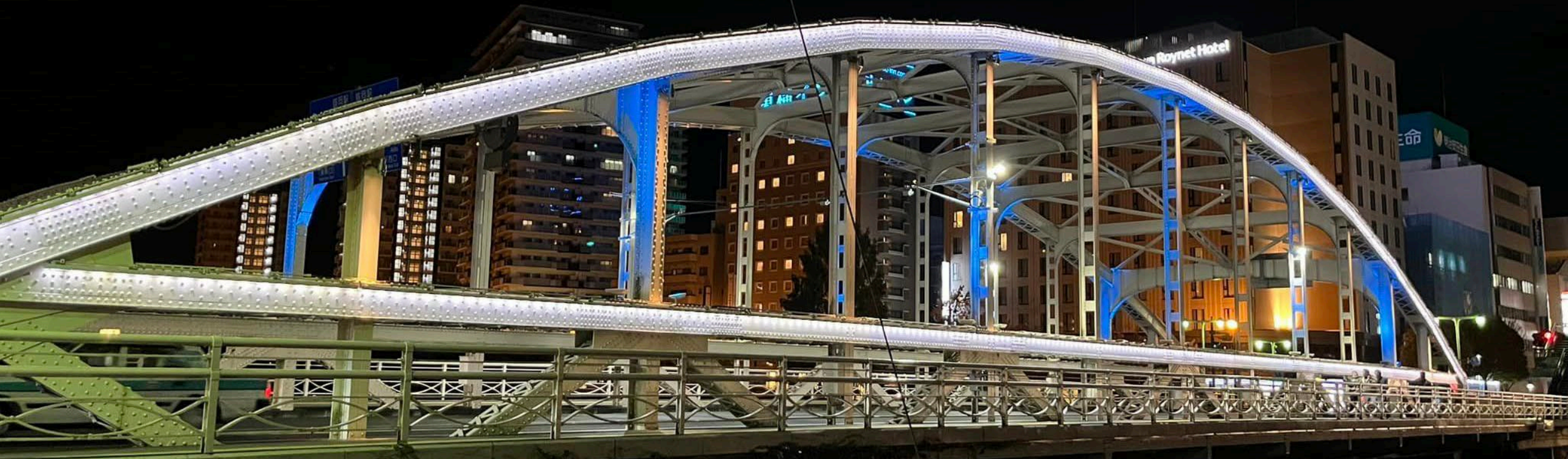




脳卒中・心臓病等総合支援センターの取り組み

岩手医科大学内科学講座 脳神経内科・老年科分野
岩手医科大学附属病院 脳卒中センター
同脳卒中・心臓病等総合支援センター
板橋 亮



脳卒中・心臓病等総合支援センター

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について

- 国は、循環器病に関する情報提供及び相談支援の、地域における核となり中心的な役割を担う、脳卒中・心臓病等総合支援センターについて、モデル事業を実施(令和4年度は10府県が採択)

事業概要

- 循環器病対策推進基本計画で、「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実」として、脳卒中・心臓病等(循環器病)患者を中心とした包括的な支援体制を構築するため、多職種が連携して、総合的な取組を進めることとしているが、これまでに都道府県が医療計画などで実施している対策よりも幅広い内容^(※)であり、各医療施設で個々の取組はされているものの情報が行き渡っていないとはいえず、全ての支援について、十分なレベルで提供することに対して課題がある

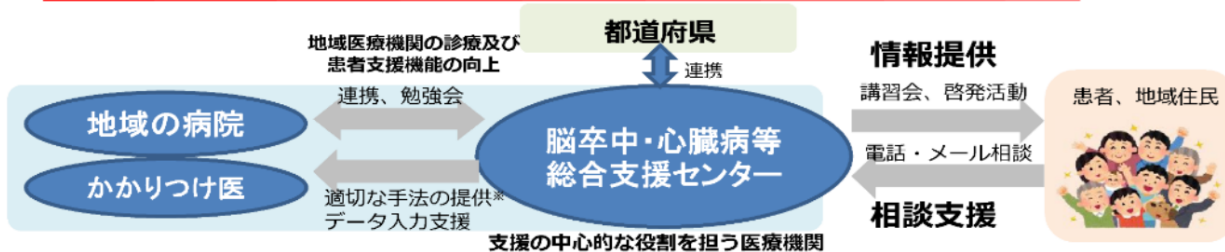
※具体的に、社会連携に基づく循環器病患者支援、リハビリテーション等の取組、循環器病に関する適切な情報提供・相談支援、循環器病の緩和ケア、循環器病の後遺症を有する者に対する支援、治療と仕事の両立支援・就労支援、小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策などが不十分

- この取組を効果的に推進するために、専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関に脳卒中・心臓病等総合支援センターを配置し、都道府県と連携を取りながら、地域の医療機関と勉強会を開催したり、支援方法などの情報提供を行うなど協力体制を強化することで、包括的な支援体制を構築し、地域全体の患者支援体制の充実を図るべく、まずモデル的に、全国に10都道府県程度において先行的に実施し、検証を行う

脳卒中・心臓病等総合支援センターのイメージ

本モデル事業の有効性を検証した上で、好事例として横展開を図る等により将来的に全国に広げることを検討

<役割> 循環器病に関する情報提供及び相談支援の、地域における核となり中心的な役割を担う



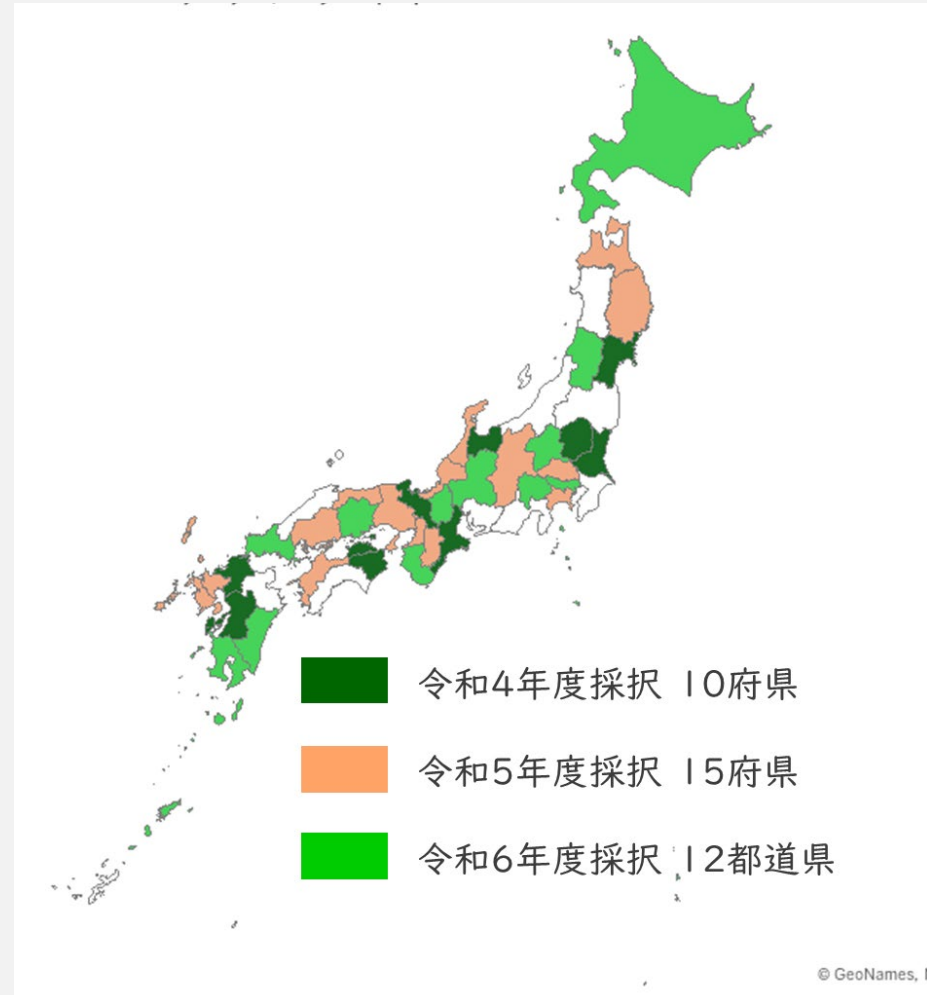
<センターに求められる要件> 支援の中心的な役割を担うことから、各疾患に対して専門的な知識が求められることを想定

- 先天性疾患に対する診療、外来リハビリテーション、緩和ケア等、循環器病に対する総合的な診療を行える施設であり、地域の病院、かかりつけ医などとも密接に連携を取りながら、データ入力の支援等もできること (※詳細はR3年度特別研究で報告)

- 自治体との密な連携が取れ、循環器病の後遺症を有する者に対する支援及び治療と仕事の両立支援・就労支援を行っていること

期待される効果：地域医療機関の診療及び患者支援機能の向上が可能となる

国民がワンストップで必要な情報を得られるとともに、より効率的かつ質の高い支援が可能となる



© GeoNames, Inc.

2023年9月1日 岩手医科大学附属病院に 脳卒中・心臓病等総合支援センター開設



脳卒中・心臓病等総合支援センターの業務

- ① 相談支援（相談窓口の運営）
- ② 連携（多職種間 病院間）
- ③ 情報提供と啓発（患者 市民）

脳卒中・心臓病等総合支援センターの業務

- ① 相談支援（相談窓口の運営）
- ② 連携（多職種間 病院間）
- ③ 情報提供と啓発（患者 市民）

脳卒中・心臓病(循環器病)に関連する

医療やリハビリテーション

生活や介護の不安

医療費や仕事・など

まずはお気軽に
ご相談ください

脳卒中・心臓病相談窓口

当院では、脳卒中・心臓病(循環器病)に関するさまざまな相談を受け支援を行っております。

医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどの専門知識をもったスタッフが連携し、一緒に考えていきます。

相談は無料で秘密は守られます。



◆相談受付時間：平日 10 時～16 時（祝日・年末年始を除く）

◆電話番号：019-611-8063

◆場所：矢巾岩手医科大学附属病院 1 階 □ 患者サポートセンター内

矢巾附属病院・1F

をお勧めします。



脳卒中・心臓病等総合支援センター

※予約制ではありませんが、十分な相談時間をご用意させていただくため、事前に相談希望日時をご連絡いただくこと

脳・心センター
岩手医科大学附属病院



令和6年度 脳卒中・心臓病等総合支援センター 相談件数

2024年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
脳卒中	2	9	2	3	6	5	5	2	5	2	3	5	49	4.1
心臓病	33	31	25	37	32	24	29	26	43	30	21	26	357	29.8
両方	1	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0.6
合計	36	41	30	41	38	29	35	28	48	32	24	31	413	34.4

* 上記相談のうち

2024年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
専用電話相談	4	1	1	1	0	0	3	0	2	0	2	0	14	1.2

脳卒中サロンの展開

- 日本脳卒中協会モデル事業
- 岩手県, 栃木県, 大阪府, 兵庫県, 熊本県
- ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成

脳卒中の予防と患者家族の支援を目指して

公益社団法人
日本脳卒中協会
JSA The Japan Stroke Association

▶ 当協会について ▶ 入会のご案内 ▶ 各種申請

サイト内検索

お問い合わせ

脳卒中患者・家族の皆さまへ

新着情報

- ▶ 日本脳卒中協会について
- ▶ 脳卒中患者さんのための情報
- ▶ 脳卒中についてもっと知りましょう！
- ▶ イベント
- ▶ 作品募集のお知らせ
- ▶ 日本脳卒中協会「サノフィ賞」
- ▶ 参考リンク集

脳卒中協会TV

オシム、脳卒中を語る。1/8

朗読配信
聴く脳卒中体験記

脳卒中サロンプロジェクト

◎ 2023年2月2日 日本脳卒中協会事務局

この「脳卒中サロンプロジェクト」は、ピアサポート（脳卒中患者・家族同士が行う支え合い）の場となる「脳卒中サロン」を立ち上げて、運営マニュアルを作成し、全国的に「脳卒中サロン」を広め、地域における脳卒中患者・家族のサポート体制を向上させることを目的としています。

今後イベントや活動レポートを掲載していきます。

教えて！あなたの脳卒中（終了）

脳卒中になったら、どんな病院で、どんな治療・どんなリハビリテーションを受ける？
脳卒中後の後遺症があっても働きたい！とか、相談できるかなあ？

脳卒中サロン

日時：2023年3月21日（火・祝）14:00から15:00まで

脳卒中を経験された方や、ご家族の方の参加を募集します。5名くらいのグループに分かれ、経験談などを共有しましょう。各グループに医療・障がい支援などの専門家も参加します。

下記からお申し込みください。登録されたアドレスに後日、参加方法を連絡します。

このイベントの問い合わせ先：
森之宮病院 医療相談室「脳卒中サロン」担当：深川・二本・藤井
電話番号：06-6969-0111

ピアサポート

病気や障がいの経験ある患者・当事者が相互扶助を行う。

- ・患者・医療者間のコミュニケーションの溝を埋める。
- ・病気の向き合い方を共有。
- ・日常生活やセルフケアへのアドバイス。

狭義のピアサポーター：同じ病気や障がいのある人々。

広義のピアサポーター：医療や福祉の専門職、福祉車両や義肢装具やシーティングの制作者や業者、近隣や市民やNPO関係者など、当事者を取り巻く様々な立場の主体が、共に支え合う仲間（ピア）となる仕組みや活動実践の総体。

コロナ禍での院内小規模開催@岩手

脳卒中サロン開設します

脳卒中で入院された患者様・ご家族に
お知らせです

脳卒中について知っていただき、入院中から治療の
経過や退院後の生活を一緒に考えていきましょう

日時：令和4年11月14日（月）13時から

場所：10階カンファレンスルーム 10-M

内容：①講演

②サロン/相談会

病気や退院後の生活、リハビリや社会福祉サービスなどについて
不安や疑問を抱えている方は、遠慮なくご相談ください

担当：脳卒中センター長 板橋 亮

医療ソーシャルワーカー 近藤 昭恵

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 鈴木 由美子

次回は12月を予定しております

担当：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 鈴木由美子

お問い合わせ先：（8038）



- 入院施設と外来施設が11km離れて分離
- 地域高齢者が多くwebでの開催に不安
- COVID19による厳しい接触制限
- がんサロンスペースは確保
- 隔週で開催

脳卒中サロンの展開～自治体と連携の試み@岩手

共催：矢巾町、岩手医科大学附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター

脳卒中サロン

患者さん・ご家族の相互交流・情報交換の場である「脳卒中サロン」を開催します。同じような悩みを持つ患者さん・ご家族同士の交流・情報交換などを行う場です。みんなで自由に語り合ひましょう。お気軽にご参加ください。

日 時：令和6年11月3日（日） 午前10時から12時

場 所：矢巾町活動交流センター（やはばーく）

矢巾町駅東1丁目12-1

対 象：一般の方（どなたでも参加可能です）

参加
無料

【第1部】講演（10：00-11：00）

「あたらないためにはどうする？」

もしあつたらどうする？」

講師 脳卒中・心臓病等総合支援センター長
岩手医科大学教授 板橋 亮 先生

【第2部】交流会（11：00-12：00）

（脳卒中患者及びその家族の方優先 30名程度）

※ 軽食もご用意しております。お気軽にお申し込みください。

脳卒中サロンのルールにご協力ください

- ・各個人の価値観や生き方を尊重しましょう
- ・参加者のプライバシーを守りましょう。（SNSへの投稿、録画、録音など禁止）
- ・特定のサプリメントや確立されていない医療情報、宗教等についてのお話はご遠慮ください。



脳・心センター
岩手医科大学附属病院

【お問い合わせ】

岩手医科大学附属病院 病院総務課
担当 熊谷
電話番号 019-613-7111（代）

- 支援センター担当職員の参画
- 病院（入院施設）のある矢巾町との繋がり
- 小規模自治体であるが故の機動性
- 自治体が広報（脳卒中非当事者も可）
- JR駅前の町の施設を無料で使用可能



脳卒中・心臓病等総合支援センターの業務

- ① 相談支援（相談窓口の運営）
- ② 連携（多職種間 病院間）
- ③ 情報提供と啓発（患者 市民）

第1回 脳卒中・心臓病等患者を支える 医療従事者セミナー

参加
無料

2024年 01月 16日 (火) 17:30 - 19:00 (zoom開場17:20)

ハイブリッドWEBセミナー 院内の方：岩手医科大学附属病院 10階研修室
院外の方：Zoomミーティング

対象 / 岩手県内のPSCコア施設 回復期リハビリテーション施設に所属する医療従事者等 お申し込み / 専用WEBフォーム

脳卒中・心臓病等患者の支援を分野の垣根を越えてシームレスに展開していくことを目指し、診療等に関わる各部門が担うケアについて、医療従事者同士が相互理解を深めるためのセミナーを開催します。

メインテーマ

脳卒中・心臓病等患者を中心とした多職種連携を考える

プログラム

開会あいさつ

岩手医科大学附属病院 病院長
小笠原 邦昭 先生

1. 急性期病院での多職種連携の現状と、看・看連携に向けての構想

岩手医科大学附属病院 看護部 看護部長
鈴木 由美子 氏

2. 脳卒中・心臓病患者への急性期ソーシャルワークの実際

岩手医科大学附属病院 医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー
其田 悠美 氏

3. 病状を考慮した、回復に向かうための食事の提供について

岩手医科大学附属病院 栄養部 主任管理栄養士
褒岩 美穂子 氏

右のQRコードを読み取り、**WEBフォーム** からお申し込みください。



■ Googleフォームでのお申し込みが困難な方はお電話またはメールにてお問い合わせください



岩手医科大学附属病院
脳卒中・心臓病等総合支援センター
事務局：岩手医科大学附属病院 病院総務課

MAIL: hsoumu@j.iwate-med.ac.jp

TEL: 019-613-7111 (内) 6039

一般社団法人
日本脳卒中
医療ケア
従事者連合

SCPA



一般社団法人

日本脳卒中医療ケア従事者連合

Stroke Care Professionals Association Japan (SCPA Japan)

岩手県支部

公益社団法人 日本脳卒中協会岩手県支部

岩手県医療ソーシャルワーカー協会

岩手県看護協会

岩手県栄養士会

岩手県病院薬剤師会

岩手県薬剤師会

岩手県介護支援専門員協会

岩手県理学療法士会

一般社団法人 岩手県作業療法士会

岩手県言語聴覚士会

事務局 岩手医科大学 脳神経内科・老年科 医局

岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1 Tel 019-613-7111 FAX 019-907-6933

就労支援・意思決定支援調査(厚労科研宮本班)

両立支援調査2023

令和5年度厚労科研費FA-18
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究(主任研究者:宮本 享)

対象府県

岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県 の7府県

調査内容

当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から
直接自宅退院した脳卒中患者の復職率および両立支援の実施状況を調査

調査期間

2023年10月～2024年3月

※ フォローアップ期間:上記期間中の退院～6ヵ月後・18ヵ月後

期待される効果

悉皆性のあるデータに基づいた 下記2点の把握

- ① 脳卒中後の復職率
- ② 「療養・就労両立支援料」の現実(算定状況や算定困難な理由)

実働組織は 脳卒中相談窓口連携会議



6

就労支援リハビリテーション調査

対象府県

脳卒中・心臓病等総合支援センターが設置されている11府県(岩手県+R4採択10府県)

調査内容

当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から
直接自宅退院した脳卒中患者に対するPT/OT/STによる就労支援リハの実施状況を調査

調査期間

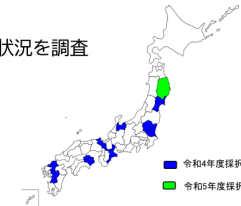
2024年10月～2025年3月

調査協力

- ・ リハビリテーションにおける職業訓練 日本理学療法士協会
- ・ 作業療法による復職支援 日本作業療法士協会
- ・ 失語症における復職支援 日本言語聴覚士協会

就労支援リハを必要とする患者数

指導料の対象外の職種によって、どの時期に・どれぐらいの頻度で
どのような内容の就労支援が実際には行われているかを、悉皆性のあるデータで示す



15

両立支援調査2024

対象府県 R5年度総合支援セ事業採択8県

調査内容

当該県のすべての一次脳卒中センター(PSC)および回復期リハ病院から
直接自宅退院した脳卒中患者の両立支援の実施状況を調査

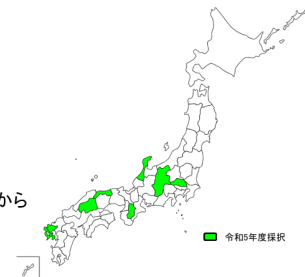
調査期間

2024年10月～2025年3月

※ 上記期間中の退院から18ヵ月後までの間に行われた両立支援

期待される効果

- ① 脳卒中相談窓口連携会議の設立と 地域連携の活性化
- ② 悉皆性のあるデータに基づいた 下記3点の把握
 - ・ 「療養・就労両立支援料」の対象となりうる 脳卒中患者の割合
 - ・ 18歳未満・70歳以上の患者の割合(2023調査に無かった新規項目)
 - ・ 「療養・就労両立支援料」の現実(算定状況や算定困難な理由)



16

意思決定支援調査2024

調査対象

当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から
直接自宅退院した脳卒中患者(69歳以下の発病前就労者)
＝すぐに死には直面せず、意思決定能力をもつ

期待される効果

- ① 悉皆性のあるデータ収集に基づく実態把握
 - ✓ ACPは普及していない(少なくとも脳卒中領域において)
 - ✓ 意思決定支援とその連携が十分行えていない原因
- ② 調査9府県における脳卒中連携看護師会議の設立と活性化

目標

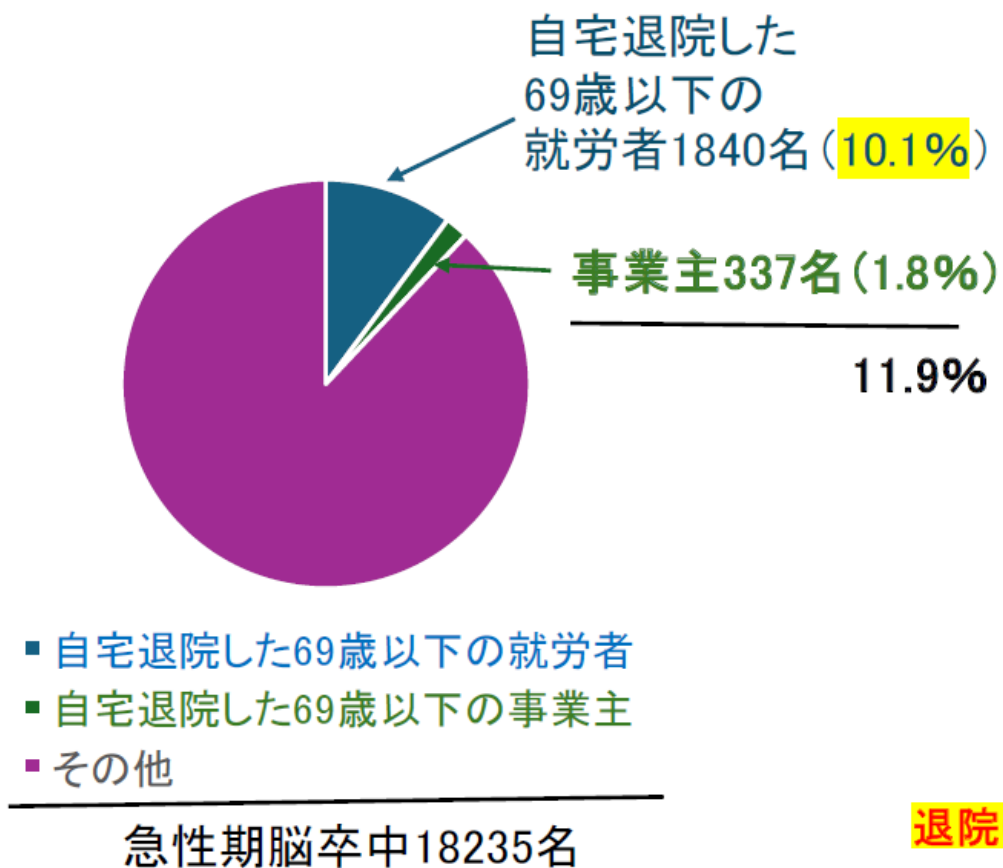
- ① 意思決定支援に対する 脳卒中医療現場の意識改革・醸成

対象府県

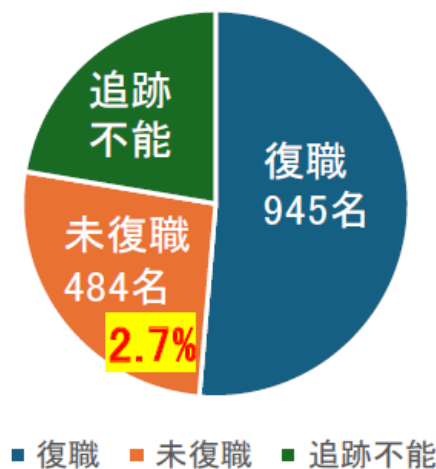


実働組織は 脳卒中連携看護師会議

急性期脳卒中患者に占める 自宅退院・69歳以下の就労者



就労者1840名の退院6か月後の復職状況



退院6か月後の未復職者：急性期脳卒中の2.7%(約3%)

＝両立支援がまさに必要な対象
“ストライクゾーン”

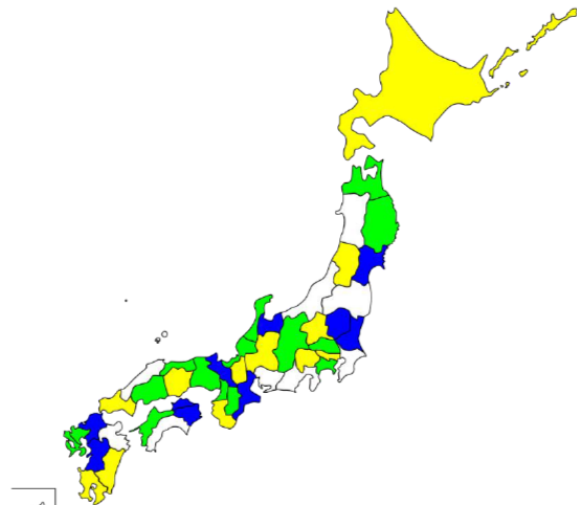
PSC/回りハ脳卒中相談窓口における展開は 今後の課題

脳心センター⇔支援調査⇔SCPA-J

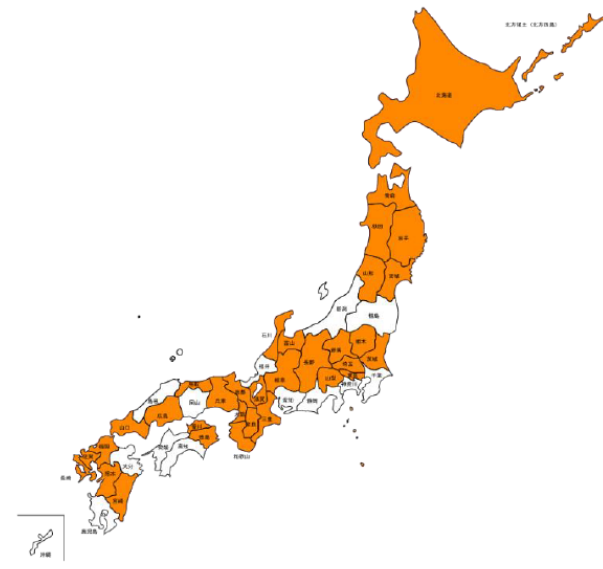
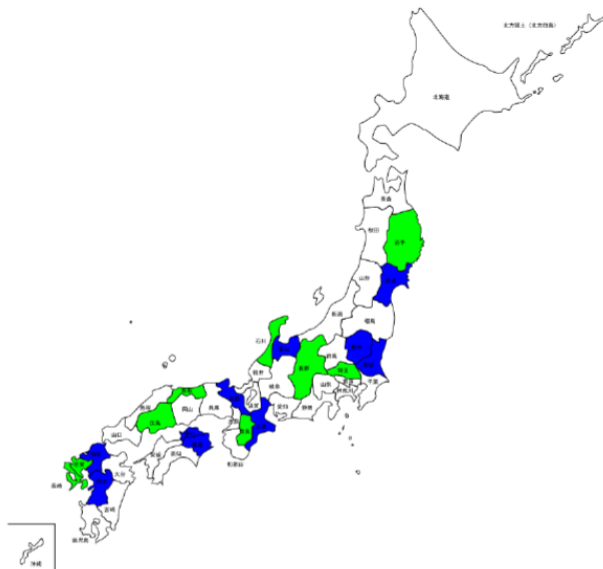
脳卒中・心臓病等総合支援センター

厚労科研 脳卒中調査実施府県

SCPA-J都道府県支部設置



- 令和4年度採択 10府県
- 令和5年度採択 15府県
- 令和6年度採択 12都道県



厚労科研 調査事業により
当該府県の地域・多職種連携が大きく進む

脳卒中・心臓病等総合支援センターの業務

- ① 相談支援（相談窓口の運営）
- ② 連携（多職種間 病院間）
- ③ 情報提供と啓発（患者 市民）

世界脳卒中デー(World Stroke Day) 10月29日

